

## 10月は3R推進月間です

3Rとは環境と経済が両立した循環型社会を形成していくためのキーワードとして、Reduce（リデュース：廃棄物の発生抑制）、Reuse（リユース：再使用）、Recycle（リサイクル：再生利用）の頭文字をとったものです。優先順位はReduce > Reuse > Recycle です。

平成21年度

# 長野県循環型社会推進大会

## 開催レポート

テーマ「できることからひとつずつ 社会へ 生活へ 3Rを広げよう」

**日時** 平成21年 10月15日(木) 13:00~16:00

**場所** 松本市中央公民館・Mウイング文化センター 6階ホール

主催 / 長野県、信州豊かな環境づくり県民会議

# プログラム

13:00 開会 (12:00～受付開始)

13:05 循環型社会形成推進功労者知事表彰

13:30 事例発表

≧

オフィス紙ごみの循環に関する取組

発表者/長野県テクノ財団伊那テクノバレー地域センターリサイクルシステム研究会 事務局長 宮坂彰氏

テーマ/「INA(伊那)におけるコピー用紙循環システムの取組」

14:10

食品残さの循環に関する取組

発表者/信州eループ事業協同組合 代表理事 高野保雄氏

テーマ/「異業種事業者の農商工連携組織化による食品循環資源の活用」

元祖環境漫才!

林家ライス・カレー子さん

14:20 環境漫才

≧

林家ライス・カレー子さん

「レッツ3R 思いは地球規模 行動は足もとから」

14:50

地球規模の大きな問題を身近なデータや現場の話をたっぷり折り込み、漫才形式で笑いの中で学んでいただきます。



14:55 レジ袋削減パネルディスカッション

≧

テーマ /「レジ袋の削減から生活全般へ3Rを広げよう」

コーディネーター/信州大学工学部建築学科 教授 高木直樹氏

専門分野:都市域での住環境の把握、環境騒音の実測及びその解析など

その他役職等:県環境審議会委員、NPO法人みどりの市民代表理事など

15:55

パネラー/消費者:南信州レジ袋削減推進協議会 会長 今村良子さん

松本市買い物袋持参運動推進市民の会 会長 田口敏子さん

千曲川流域レジ袋削減推進協議会 会長 笠井雪子さん

事業者:株式会社西友 企業コミュニケーション部環境企画グループマネジャー 大野郁宏氏

行政:長野県環境部廃棄物対策課 課長 石田訓教氏

12:00~16:00 ブース展示

長野県

信州豊かな環境づくり県民会議

松本市買い物袋持参運動推進市民の会

長野県リサイクル資材協会

クルるん & MOTTAINAI ハンカチ

お帰りの際アンケート  
にお答えいただいた方へ  
「クルるん & MOTTAINAI  
ハンカチタオル」を  
プレゼントしました



## 開会あいさつ

長野県環境部長 白井千尋

信州豊かな環境づくり県民会議 会長 北條舒正



白井環境部長

環境基本計画の中でも、資源の浪費と廃棄物による環境への負荷を最小限に抑え、真の循環型社会の形成を図るためには、まず、廃棄物の発生量をできるだけ抑制する必要があり、3Rの中でも「リデュース」の取組が大事であることを述べております。県民、事業者、行政が一体となって、真の循環型社会に向けた3Rの取組を進めていきたいと考えておりますので、皆さまのご理解とご協力をお願いするとともに、本日の大会が、ご参加いただいた皆さま方にとって、改めて3Rの必要性や実践方法を認識していただき、共有していただく機会となることをご期待申し上げます。



北條会長

信州豊かな環境づくり県民会議としましても重点率先取組事項として「地球温暖化防止に向けた取組の推進」と「循環型社会に向けた取組の推進」のふたつを掲げてございます。皆さまの草の根的な取組の積み重ねが、自然と人が共生し、環境への負荷の少ない持続的に発展できる郷土を築いていくことにつながると信じます。

# 循環型社会形成推進功労者知事表彰

「循環型社会形成推進功労者表彰」は、廃棄物の適正処理及び資源化等の推進、啓発・普及及び指導教育等に率先して取り組み、顕著な実績を挙げている、事業者、個人、グループ及び学校等を表彰し、その功績を讃えるとともに、循環型社会形成の推進を図ることを目的としまして、平成16年度から実施しているものです。平成21年度は7名の皆様へ知事表彰が授与されました。

## 表 彰 者 内 容 等

### 「事業者の部門」

かぶしきがいしゃい な っ く  
**株式会社イナック 様（宮田村）**

長年にわたり、多品目による廃棄物の分別・リサイクル化を推進されているほか、構内緑化を始め地域清掃活動を通じて積極的に地域住民との交流を図るとともに、自社独自のリサイクルフェアを開催するなど、循環型社会形成への模範的な企業作りに努めております。

かぶしきがいしゃ え な こうぎょう  
**株式会社恵那興業 様（阿智村）**

廃棄物の再資源化に取り組み、分別と圧縮梱包を中心とした資源再生業務を行っており、循環型社会構築の模範的な事業を展開しております。また平成11年に、飯田市が環境都市宣言として計画した「飯田市エコタウン」の設立にも大きく貢献されております。

かぶしきがいしゃ ま え だ  
**株式会社マエダ 様（飯田市）**

長年にわたり、金属原料及び紙資源等の収集、加工、販売を通じ、環境負荷の低減に取り組み、循環型社会の形成に貢献するとともに、地元中学生の職場体験学習を積極的に受入れるなど、環境教育や地域環境保全活動にも力を注いでおります。

せい こ ー え ぶ そ ん かぶしきがいしゃ  
**セイコーエプソン株式会社 様（諏訪市）**

県と産業廃棄物減量化・適正処理実践協定を締結し、社内イントラネットによる資源循環、省資源等に関する基礎教育を行うとともに、包装材の削減、廃酸の肥料化等の再生利用、汚泥の発生抑制などについて先進的に取り組んでおります。

か こ め かぶしきがいしゃ ふ じ み こうじょう  
**カゴメ株式会社富士見工場 様（富士見町）**

県と産業廃棄物減量化・適正処理実践協定を締結し、地域イベントにおいて分別に関する展示、紹介を行うとともに、肥料化、食品原料化等再生利用、リサイクル困難な複合素材の容器からの金属回収、紙原料化などについて先進的に取り組んでおります。

お り ん ば す かぶしきがいしゃ た つ の じ ゃ ゅ う じ ゃ う  
**オリパス株式会社辰野事業場 様（辰野町）**

県と産業廃棄物減量化・適正処理実践協定を締結し、廃棄物発生量等を記載した環境報告書をホームページに掲載し情報公開を行うとともに、プラスチック部品廃材の分別による排出抑制、溶剤の再生利用などについて先進的に取り組んでおります。

### 「その他の部門」

まきはら おさむ  
**榎原 治 様（飯田市）**

昭和62年から飯田市のごみ及びし尿処理施設の現業職員として21年余従事し、処理技術向上のため豊富な経験を生かし、積極的に研究・学習に取り組む傍ら、後輩の指導・育成にも努力されており、他の職員の模範となっております。



白井環境部長から知事表彰授与



(株)恵那興業 平栗幹夫様謝辞



受賞者、白井部長、北條会長

## 事例発表①

オフィス紙ごみの循環に関する取組

発表者/長野県テクノ財団伊那テクノバレー地域センターリサイクルシステム研究会

事務局長 宮坂彰氏

テーマ/「INA(伊那)におけるコピー用紙循環システムの取組」



事務局長 宮坂彰氏

### 目 次

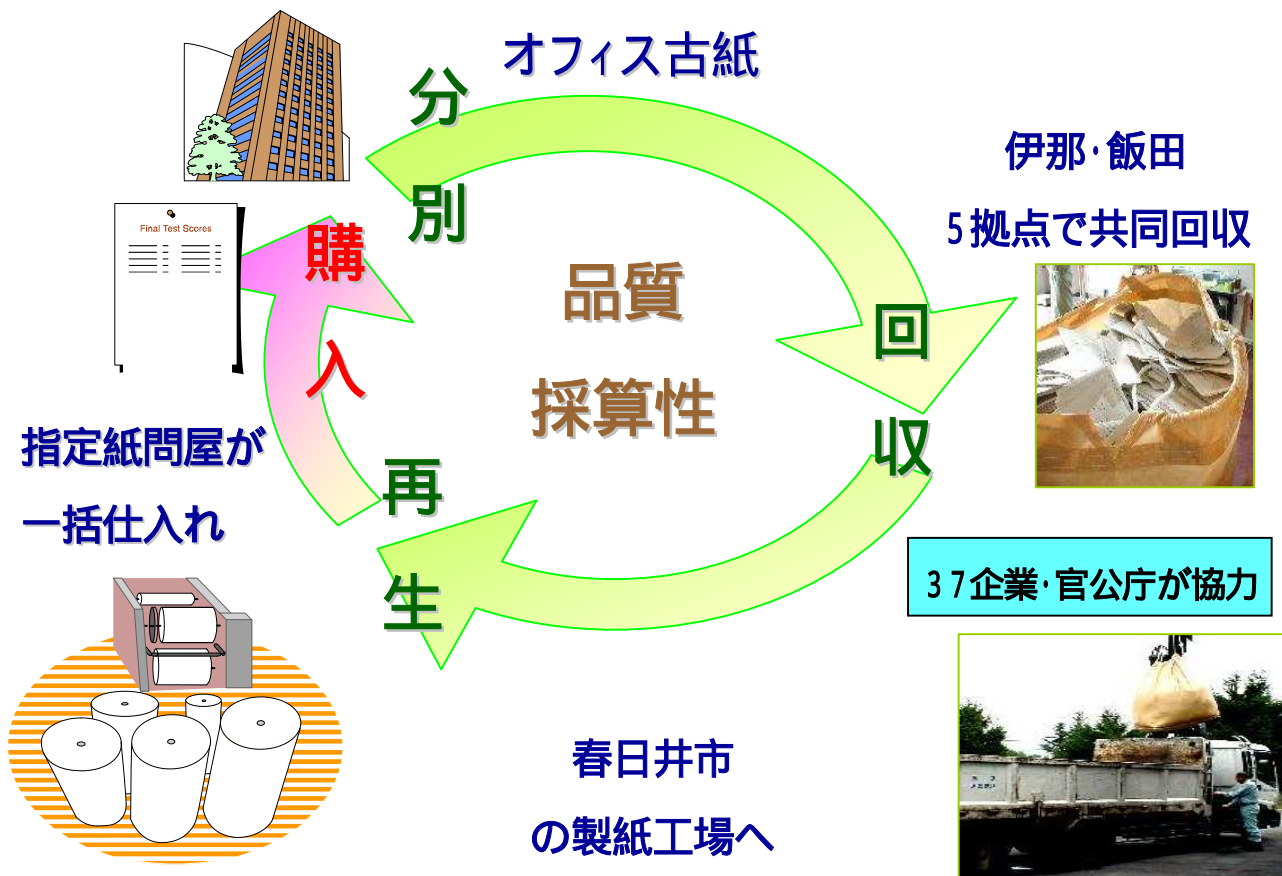
#### <INAコピー用紙循環システムの紹介>

- 1) リサイクルシステム研究会の紹介
- 2) オフィス古紙回収システムに取組んだ理由
- 3) 紙のリサイクル現状調査
- 4) 分別収集システムの確立
- 5) 物流システムの確立
- 6) 古紙循環システム概念図
- 7) 古紙回収量と参加企業・団体数
- 8) 古紙回収の状況
- 9) 課題と今後の取り組み

私どもの活動が少しでも循環型社会推進、そして地球温暖化防止に役立てばと思っております。

# 参加企業の枠組による共同システム(1999年～)

< INA北<sup>◎</sup>-用紙循環システム: 廃北<sup>◎</sup>-用紙を北<sup>◎</sup>-用紙へ戻す >



## 事例発表②

食品残さの循環に関する取組

発表者/信州eループ事業協同組合

代表理事 高野保雄氏

テーマ/「異業種事業者の農商工連携組織化による食品循環資源の活用」



代表理事 高野保雄氏

食品循環資源の活用とは、食品廃棄物等の排出抑制と資源として有効利用を推進する、大量消費・大量廃棄型社会から循環型社会への転換を図る。

取り組むことになったきっかけ 資源を有効活用することで「モットイナイ」と「環境」に貢献できるのでは？

・食品産業における食品副産物・余剰品等の発生量(農林水産省資料)が、平成13年度1,092万トン  
平成18年度1,135万トンと増加傾向(家庭から出される食品廃棄物は含まず)・日本人一人当りの年間食料消費量(農林水産省食料需給表 平成20年度より)577.8kg/人(類別・品目別合計)

約1,965万人分に相当。

食品製造業、飼料製造業、畜産業、産業廃棄物収集業などの事業者で組合を設立(14企業)

eループの「e」= ecology(環境・生態(学)) eat(食べる) energy resources(エネルギー資源) earth(地球)

売れる豚肉を生産する、飼料の製造と搬送、給餌の様子と生産者

安全・安心を確立するためにトレーサビリティシステムの構築と運営 eloopトレーサビリティシステム

循環システムによる効果

・食品副産物・余剰品等の排出量の削減 排出量 450トン/年が再利用により削減

・食品副産物・余剰品等の処理費等のコストの削減 処理費 1800万円/年のコストが再利用で低減

・CO<sub>2</sub>の排出量の低減 CO<sub>2</sub>の排出量 再利用により38.3トン/年のCO<sub>2</sub>発生が抑制

・飼料生産上の穀類の使用原料の削減 穀類等の原料 350トン/年が再利用により削減

今後の課題と展望



# e-loopのしくみ



## 環境漫才

林家ライス・カレー子さん 「レッツ3R 思いは地球規模 行動は足もとから」

林家ライス・カレー子さんは、元祖環境漫才として、全国で活躍されています。

林家カレー子さんは、上田市のご出身であり、環境カウンセラーです。

地球規模の大きな問題を身近なデータや現場の話を折り込み、笑いの中で学んでいただきました。



ペットボトルをリサイクルしたカーテンから作ったドレス帽子をつけて登場



地球にやさしい生活、3Rの実践のためには「ABC」が大事です。Aは「あたりまえのことを」、Bは「ばかにしないで」、Cは「ちゃんとやろう」です。さあ、みさなんご一緒に「ABC」…。

最後は「いのちMOTTAINAI 小さな一歩から」の自作CDで会場と一緒に歌とアクションを演じました。  
(歌詞一部 マイバッグ 持たずに お買い物 もらって 捨ててる レジ袋 MOTTAINAI もったいない…)

会場アンケートからは、「話がとてもわかりやすかった」「ABCがよかった」「環境漫才で3Rがよくわかった」「もう少し聞きたかった」「最後に演じられた歌が素晴らしかった」など、大好評でした。

---

## レジ袋削減パネルディスカッション

テーマ / 「レジ袋の削減から生活全般へ3Rを広げよう」

コーディネーター/信州大学工学部建築学科 教授 高木直樹氏

専門分野：都市域での住環境の把握、環境騒音の実測及びその解析など

その他役職等：県環境審議会委員、NPO法人みどりの市民代表理事など

パネラー/消費者：南信州レジ袋削減推進協議会 会長 今村良子さん

松本市買い物袋持参運動推進市民の会 会長 田口敏子さん

千曲川流域レジ袋削減推進協議会 会長 笠井雪子さん

事業者：株式会社西友 企業コミュニケーション部環境企画グループマネージャー 大野郁宏氏

行政：長野県環境部廃棄物対策課 課長 石田訓教氏

---

## ディスカッションの様子（概要）



## (話題1) 各団体等のレジ袋削減のための活動や取組の様子について

南信州レジ袋削減推進協議会 会長 今村良子さん

- ・関係団体へ呼びかけて、H20.7.7「南信州レジ袋削減推進協議会」(飯伊地域15市町村)を発足。
- ・廃止、有料化、値引きの3つから、事業者が自社に合った取組を決め協議会へ登録、130店舗が登録。
- ・21年2月1日から有料化等スタート。21年3月のレジ袋辞退率は87.4%で、取組前の34.8%から52.6%向上した。
- ・県は持参率60%以上を目標としているが、南信州はより高い80%以上を目標に推進している。
- ・特徴は、行政、市民、事業者が一体となって推し進められたこと。



松本市買い物袋持参運動推進市民の会 会長 田口敏子さん

- ・16~17年ほど前に、行政中心に「ごみ減量推進市民会議」があった。当時、ごみの焼却プラントの更新やダイオキシン問題など背景にあった。
- ・消費者の会、友の会、働く婦人の家の方たちが、古傘から買い物袋を作った。単体でやっても広がらないため、「ごみ減量推進市民会議」を通じて、買い物の姿からごみ問題に取り組む方向となった。
- ・平成9年に、松本市買い物袋持参運動推進市民会議が発足。当初88団体。年会費1,000円以上。
- ・18年12月5日から毎月5日を「ノー・レジ袋デー」に制定し(県も20年10月から5日を統一日と設けてくれたが)協力店舗で隔月ごと買い物袋の持参を呼びかけ、持参率調査などやりながら、次の活動を探っている。
- ・松本市政100周年記念事業で松本版もったいないふるしきを作り、子供たち対象に使い方アイデアコンクールを実施。ふるしきを通じて、もったいない心や工夫して生きること、を教えた。教育委員会の組織で流すのではなく、児童センターなど個々に依頼し会員が出前し、ふるしきの使い方を通じて環境問題につなげた。



千曲川流域レジ袋削減推進協議会 会長 笠井雪子さん

- ・組織はできたて、これからが本番。
- ・千曲市では平成16年に環境基本計画を作るために公募による委員を置いた。自分もその中の一人。基本計画は5つで、その中に「もったいないを大切に暮らす」という章を設けた。計画だけで終わらないように、その時の委員が中心となって「環境市民会議」を立ち上げた。この時点で、10年以上前からレジ袋削減に取り組んでいた自分は、買い物には買い物袋を使おう、そして食品トレイを減らそうと、「レジ袋・食品トレイ減らし隊」を発足し活動を続けてきた。
- ・終日の持参率調査、食品トレイ状況調査、消費者の意識調査、事業者との懇談会など重ねてきた。
- ・ある店舗では、持参率が17年12月の8.7%から21年7月は33.9%と上がった。ある店舗では、18年7月の9.4%から21年7月は31.3%と上がっている。

- ・消費者の意識調査で、レジ袋を有料化した場合、有料化にはなっても行くは63%、買い物袋を持参するが28%、残った10%が他の店に行くであった。
- ・事業者懇談会では、有料化は商圈一斉にやらないと難しいという意見を受けていた。
- ・県のレジ袋削減県民スクラム運動の目標である持参率60%以上を達成するにはどうしたらよいのかなど検討し、名古屋市や南信州へ視察に行った。長野市や上田市へ呼びかけ、20年12月に環境フォーラムを開催し、ここで千曲川流域での取組宣言を行うことができた。
- ・以来、10回の幹事市話し合い、6回の広域話し合いを経て、21年9月28日に「千曲川流域レジ袋削減推進協議会」が設立した。9市1町4村と長野県が参加している。
- ・私達はレジ袋無料配布中止を目指している。

株式会社西友 企業コミュニケーション部環境企画グループマネジャー 大野郁宏氏

- ・今のところどの店舗でも有料化していない。すべてのお店でハチドリキャンペーンの取組を行っている。
- ・西友のレジ袋削減の取組歴史は長く20年近くになる。ハチドリの取組を始めるまでは持参率5~6%を突き抜けられない状態であった。容り法改正やチェーンストア協会としても2010年度に30%削減しようという目標を掲げた経緯から、社としても何とかしなくては話し合いを持ってきた。
- ・事務局としては、有料化が盛り上がっている中、それによってエリアごとに有料化を進めていきたいと考えたが、社長がアメリカ人で、エド・カルジェスキー社長がレジ袋の有料化に絶対反対であった。彼いわく、マイバッグを持ってくればよいという簡単なことなのに、有料化はお客様の選択枝をせばめることになる、それは社長方針として許さないという、強い意志が示された。
- ・有料化をしないで有料化に負けない数字を出すための方法を半年考えた。レジスター（女性が多い）は、渡されたレジ袋が少ないと文句を言われたり、レジに並ばれてイライラされるのが怖い、彼女たちを何とかマインドチェンジして、レジスターからお客様へレジ袋を減らすための働きかけをする方策はないか、その時私が思いついたのがハチドリの話であった。
- ・上司の「これならいける」の判断を受け、実験店12店で実施。今までレジがお客様へレジ袋をいるかと聞くことはタブー的であったが、実験店では持参率10%程度から30~40%と上がった。これは効くなということで2年前の7月から全店へ拡大した。
- ・少しずつ協力してくれるお客様が増え今年の8月には全店平均で50%を超えた。いいお店で80%を出した。

取組紹介（日経ホームページ） <http://eco.nikkeibp.co.jp/article/column/20091006/102337/>



長野県環境部廃棄物対策課 課長 石田訓教氏

- ・本県の取組は、マイバッグ等持参率を60%以上を統一目標として掲げ県民運動として取組を進めている。
- ・具体的には、昨年10月1日に、スーパーなど事業者と消費者と県が、三者協定を結び相互に連携協力してやっている。毎月、県の10の地域、11の店舗で店頭啓発など行っている。
- ・この1年間、協定の締結を進め、現在では、スーパーの他、クリーニング店、ドラッグストアなど23者約500店舗と協定を締結している。
- ・現在のマイバッグ持参状況は、目視調査をやっていますが、県全体の平均でおおむね4割後半から5割で推移している。取組は昨年10月からだが、取組前の2008年3月は約3割弱なので、2割ほど上がってきている。
- ・目標の60%クリアーに向けて取り組んでいきたい。
- ・最近では、(本日のパネラーでもいらっしゃるが)それぞれの地域ごと、商圈ごとに踏み込んだ取組が行われているので、そういったところとも連携し取り組んでいきたい。



信州大学工学部建築学科 教授 高木直樹氏

- ・私の研究テーマとしては、ヒートアイランドとか地球温暖化なので、直接的にはマイバッグとかレジ袋には関係ないが、長野市でNPO法人「みどりの市民」をやっており、ここはレジ袋などのことにも係わっていて、(笠井さんの)千曲川流域の活動にも参加している。そんなような縁で、時々このような場で話す機会もある。
- ・この頃は、1袋30円とか40円とか有料化してごみ減量に挑戦している自治体ある。名古屋市とか。
- ・長野市でごみ焼却場の更新の時、審議会の委員をした。その時計算したが、(処理費とは、集めて燃やすだけでなく施設建設から全部はいるが)その全ての経費を、処理期間集めたごみの量(袋数)で割るといくらになるか。1袋200円くらいになったという計算になった。場所によって異なることであるが・・・。
- ・1袋30円とか40円とかで袋を買い裏ではもう160円を税金を払うという実態がある。つまり税金でも購入料でも、最終的にはお金を出してごみを処理している。ごみを減らす、リデュースする、絶対量を減らすということが大事であると、その時感じている。そんなこともあって、なんとか減らすにはどうしたらいいかということで、今日は、コーディネーターとして参加させていただいている。



高木直樹コーディネーター

## (話題2) 今までの取組から見てきた広がり、これからの活動の方向性について

長野県環境部廃棄物対策課 課長 石田訓教氏

- ・1年弱やってきて、若い方や男性の持参率が低いいため、この層へ有効な啓発。
- ・食品スーパー以外への取組の拡大。
- ・それぞれの地域での踏み込んだ取組を進める。
- ・難しいことではあるが、若い方や男性への有効な啓発ということで、コンビニエンスストアと連携して何かできないか。
- ・レジ袋の削減から3R全体へ広げていきたいということもあり、例えば「食べ残しを減らそう推進事業」を始めたが、こうした他の発生抑制の行動へも広げていきたい。

信州大学工学部建築学科 教授 高木直樹氏

・私も男性なので持参率が低いというのは困るが確かにそういう傾向はあるかと。この後話をされるパネラーの方で、若い方や男性の持参率が低いということで関連した話があればどうぞ。

株式会社西友 企業コミュニケーション部環境企画グループマネジャー 大野郁宏氏

・チェーンオペレーションは本部が指示を出して店はそのとおりにやりなさいという体制であるため、店の創意工夫がなく現場での活性化が図られない状況であった。今回の(ハチドリ)取組はおおきな枠組の中でお店の自発性を出してもらうのが特徴になっている。

・モデル店での実験の際も、本部マニュアルは50%、モデル店舗が50%で、波及することを課題とした。(自分は本日マイボトルを持参したが)相違工夫努力する店舗の店長は、マイボトルを持つとかマイはしを使うとか、本部が狙ったレジ袋の問題だけでなく、他の環境問題へ意識を持ち、社員へ影響している。身近な自分にできることからひとつひとつ始めていくことが、この運動の中から出来てきている。

・若い男性にも、単に有料化とかマイバッグを持って来ましようだけでなく、自分がハチドリの一員としてできることからやりましようという気持ちに訴えることができれば、参加してくれるかと思う。

信州大学工学部建築学科 教授 高木直樹氏

・人を動かすには心を動かす必要があり、その心を動かす活動をしているということがよくわかります。

千曲川流域レジ袋削減推進協議会 会長 笠井雪子さん

・9月28日に協議会の協議会設立総会があったばかりだが、約1年間の準備期間があった。これからが本番と思っている。今まで点の取組が面となって活動ができると考えている。

・削減目標は、県と同じ持参率60%以上と、今のところ設定している。

・目標達成のため効果的な取組を登録することになっている。登録の第1回の締め切りが11月30日で、12月1日から取組スタートと決めている。11月27日に上田市で事業者懇談会を予定。

・正直を言って、今、どれだけの事業者が登録してくれるか、市民が参加してもらえるのか緊張している。

・男性の持参率については、レジ袋有料化に関するアンケートの時、女性は5円までなら買う、男性は10円までなら買うと答えている。(夫も含めて)男性はちょっとの工夫ができないようです。

信州大学工学部建築学科 教授 高木直樹氏

・10円でレジ袋を売ったらスーパーがもうかってしまいますね。

松本市買い物袋持参運動推進市民の会 会長 田口敏子さん

・発足時は松本地域で定着するのかわれた。3年前から、子供の心をつかむということで小学校4年生を対象として(松本市には2,100人)内閣府のパンフレットと市民の会のシールを渡している。4年目に入った。

・10/5の持参率は45%だった。8月も46%だった。場所によっては57%、54%とある。定着するのかわれていた17%~18%から、ここ急に、県の「毎月5日統一NO・レジ袋デー」設定の後追いもあったと思うが、持参率が上がってきたのは嬉しい。定着したんだ、子供達にも話題になっていると実感している。

・マイバッグ運動始まってから万引が3倍になっているという訴えがある。富山県やテレビにもそういう話がある。すべてではないと思うが、松本市では買い物マナーの啓発を行うため、マナーポスターを作ったので、ポスター張り替えの行動を起す。

・小学校4年生、市民の会、行政とスクラム組んで、環境に目を向けるとっかかりのものにしていきたい。

信州大学工学部建築学科 教授 高木直樹氏

・万引のことは時々耳にする。万引は犯罪である教育を、万引を最初に体験する年齢(中学校か高校から)の少し前の世代にストップする教育も必要になってくるのかもしれない。

南信州レジ袋削減推進協議会 会長 今村良子さん

- ・持参率は高い結果が出てありがたい反面、スーパーは登録店だが、登録店でない量販店やコンビニにも押し進めていきたい。
- ・先日、飯田市と下伊那地方事務所と自分と3人で登録勧誘の店舗訪問をした時、登録はしていないが有料化している店があった。登録していなくても削減に取り組んでいるお店があることを知ってよかった。
- ・西友は有料化していないが2店舗登録されていて取組を一緒にやっている。県の定めた5日を中心に店頭啓発をやっているが、その啓発を西友県店で行った時に、渦巻きの中におかげで全国360ある西友の店舗の中で県店が1番になったという話を聞いて、地域で取り組んできて本当によかったと思った。
- ・今後は、レジ袋だけが3Rでないので、いろいろな3R活動を進めていきたい。「だれでもすぐ出来る、いいことづくめのレジ袋削減、小さく産んで大きく育てよう」をスローガンに、やっています。

信州大学工学部建築学科 教授 高木直樹氏

- ・同じような活動をしていても、スタート時期や地域性の違いなどでいろいろあるようです。
- ・自分は東京の出身なので、長野県内の地域性の違い(北信と南信の違い)はよくわからないが、逆に私の目から見ると、長野の人はある意味まじめ、もうひとつは、たえず左右を見ながら前に進む。東京は回りを全然見ないで一人で勝手に行ってしまう人もいるぼんぼんいるが、長野は少ない。例えば、レジ袋の場合も、みんな持参を始めると、ほっておいても持参するかなあ・・という気がする、そのブレイクする、突破口となるパーセンテージは、多分60%くらいなのかという気がします。
- ・60%を超えると、80%くらいまでは簡単にいくのではと想像する。目標60%を超えると一気にいくのではないかと。できるだけ多くの地域で、また全県的にそういった数値になっていくといい。
- ・参加の皆さんも、地域の活動の中で、今日の話を参考にしてレジ袋や3Rを話題にして欲しい。

### (話題3) 循環型社会に向けての想いを一言でコメント

千曲川流域レジ袋削減推進協議会 会長 笠井雪子さん

- ・大量生産、大量消費、大量廃棄=豊かな生活、その時代はもうバイバイです。ごみを減らすことを積極的に取り組んでいきたいと考えます。CO2削減は、1人の100歩よりも100人の1歩で活動を進めていきたいと思えます。

株式会社西友 企業コミュニケーション部環境企画グループマネジャー 大野郁宏氏

- ・1人の100歩よりも100人の1歩は非常にいい表現だと思います。みんなが少しずつやるほうが効果として大きい。我々もそういう精神にのっとってやっていきたいと思えます。

松本市買い物袋持参運動推進市民の会 会長 田口敏子さん

- ・総論賛成、各論反対の、なかなか足並みのそろわないこういう分野では、数字を出すということは難しい。60%をコンスタントに維持するのは有料化でもしないと、これだけレジ袋の利便性を味わった消費者にはたいへんだと思う。時限立法でもいいからやってみるといことで環境全体がどうかと現実的には考える。
- ・いずれにしても私達の市民運動は、地球にやさしい、暮らしにやさしい、そういう暮らしをしていきたい、本当の豊かさとは何か、そんなようなことを求めながらやっていきたい。

南信州レジ袋削減推進協議会 会長 今村良子さん

- ・高木先生も一緒に環境審議会の専門委員会というところで、グリーンコンシューマーをすすめようという内容の中に入れてほしいと言ってきたが、今、レジ袋が一角である。買い物をするときから、ごみを考えて買い物を



して、なるべくごみを出さない生活を目指していきたい。それが3Rの活動につなげていけるのではと自負している。

長野県環境部廃棄物対策課 課長 石田訓教氏

・廃棄物行政は、最終的に出た廃棄物をどうするのか、そういう部分が課題になったり話題になったりすることが多いが、実は廃棄物の減量、3Rという前段階での対策が極めて大事であると感じており、できれば、廃棄物行政をやっている中においても、仕事の比重というか、そういったものの転換を目指してやっていきたい。

信州大学工学部建築学科 教授 高木直樹氏

・自分自身もマイバッグをずっと使っている。レジ袋の便利さの話があったが、買い物に行くと私が（男が）重いものを持たされることが多いわけで、他の人が持っているレジ袋は手に食い込んで痛そうであり、私的には、なんであんな不便なことをしているのかと感じています。ちゃんとしたマイバッグを持っていれば、そっこのほうがよほど便利と思いますが、世の中はそうではないのかもしれない。

・グリーンコンシューマーというのは、マイバッグ持参をすべて中に含んだもっと賢い消費者になるよというもの。家で牛乳を飲むときは古い方から飲んでお店で買うときは新しい方から買うというのも、グリーンコンシューマー的な考え方をすれば、ちゃんと賞味期限内に飲む自信があれば古いのを買っても問題ない、まがったきゅうりとまっすくなきゅうりでどっちを買うのかと、そういったことも含めて、なるべくまさに賢い消費者に、私自身も、皆さんもなっていけたらいいと思っております。



パネラー左から

(消費者)南信州レジ袋削減推進協議会 会長 今村良子さん

(消費者)松本市買い物袋持参運動推進市民の会 会長 田口敏子さん

(消費者)千曲川流域レジ袋削減推進協議会 会長 笠井雪子さん

(事業者)株式会社西友 企業コミュニケーション部環境企画 グループマネジャー 大野郁宏氏

(行政)長野県環境部廃棄物対策課 課長 石田訓教氏



# ブース展示

長野県、信州豊かな環境づくり県民会議、松本市買い物袋持参運動推進市民の会、長野県リサイクル資材協会



長野県(レジ袋削減県民スクラム運動)、長野県リサイクル資材協会(リサイクル認定製品)



松本市買い物袋持参運動推進市民の会、信州豊かな環境づくり県民会議(ポスター)



松本市買い物袋持参運動推進市民の会